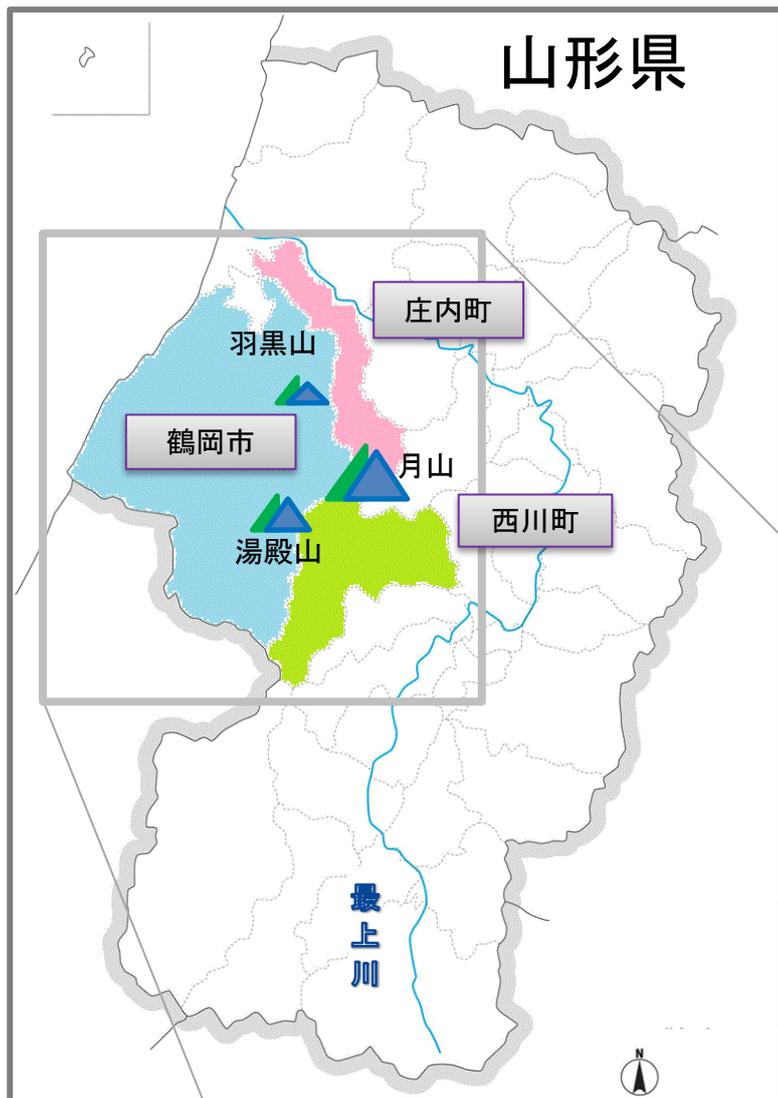


① 申請者	◎山形県 (鶴岡市、西川町、庄内町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』 ～樹齢 300 年を超える杉並木につつまれた 2,446 段の石段から始まる出羽三山～ <small>でわさんざん</small>			
④ ストーリーの概要 (200 字程度)			
<p>山形県の中央に位置する出羽三山の雄大な自然を背景に生まれた羽黒修験道では、羽黒山は人々の現世利益を叶える現在の山、月山はその高く秀麗な姿から祖霊が鎮まる過去の山、湯殿山はお湯の湧き出る赤色の巨岩が新しい生命の誕生を表す未来の山と言われます。</p> <p>三山を巡ることは、江戸時代に庶民の間で『生まれかわりの旅』として広がり、地域の人々に支えられながら、日本古来の、山の自然と信仰の結び付きを今に伝えています。羽黒山の杉並木につつまれた石段から始まるこの旅は、訪れる者に自然の靈気と自然への畏怖を感じさせ、心身を潤し明日への新たな活力を与えます。</p>			
羽黒山の石段と杉並木	月山		
湯殿山の滝行を行う御滝	松例祭の大松明行事		

市町村の位置図(地図等)



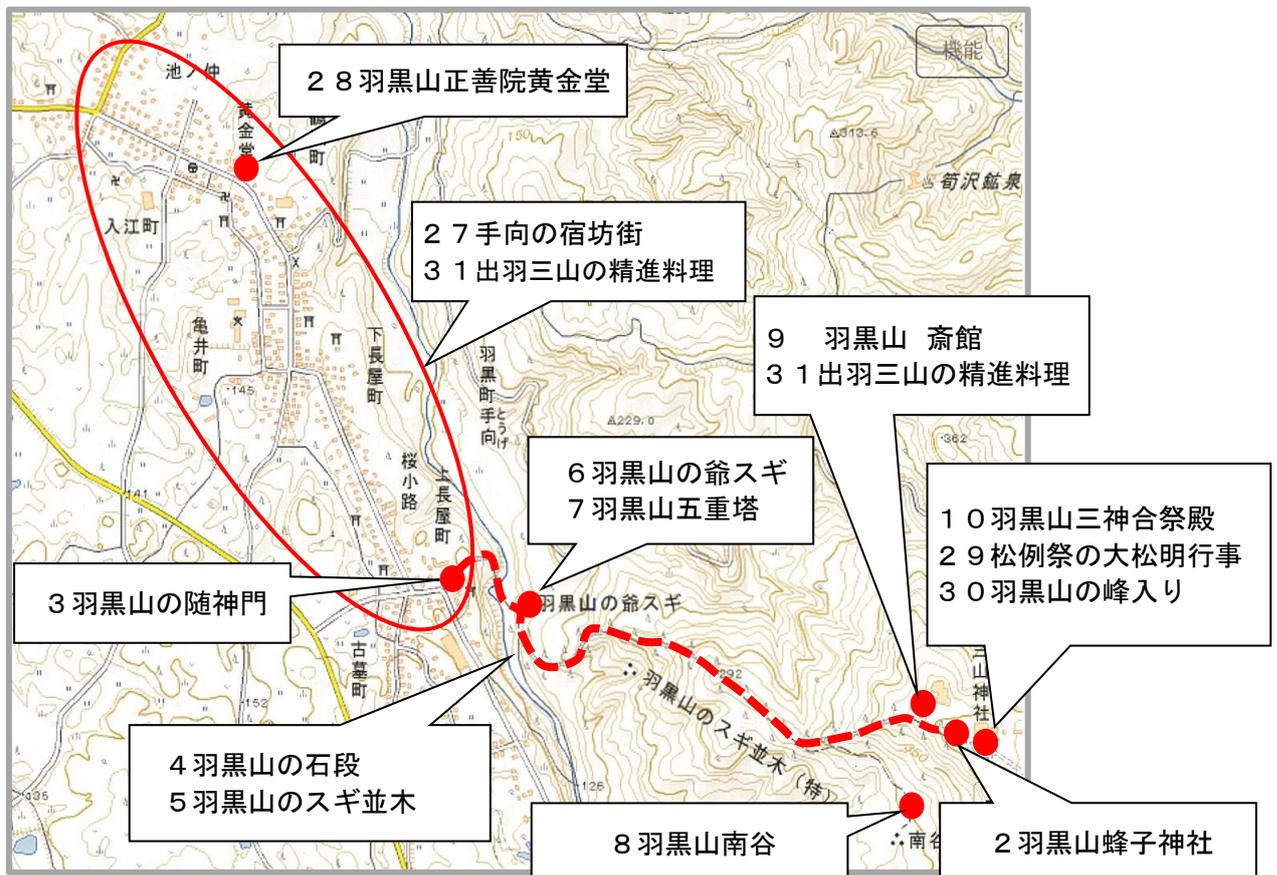
構成文化財の位置図(地図等)



構成文化財の位置図 1



構成文化財の位置図 2



構成文化財の位置図 3



## ストーリー

## 『生まれかわりの旅』のはじまり



出羽三山の主峰月山

出羽三山は、山形県の中央にそびえる羽黒山(414m)・月山(1,984m)・湯殿山(1,504m)の総称であり、月山を主峰とし羽黒山と湯殿山が連なる優美な稜線を誇ります。

おおよそ1,400年前、崇峻天皇の御子の蜂子皇子が開山したと言われる羽黒山は日本有数の修験道の聖地です。修験道とは自然信仰に仏教や密教が混じり生まれた日本独特の山岳信仰です。羽黒修験道では三山の特徴から、羽黒山は現在の幸せを祈る山(現在)、月山は死後の安楽と往生を祈る山(過去)、湯殿山は生まれかわりを祈る山(未来)と見立てられました。生きながら若々しい生命をよみがえらせることができるというその信仰は、江戸時代に庶民の間で現在・過去・未来を巡る『生まれかわりの旅』(羽黒修験道では「三関三渡の旅」と言う。)となって広がりました。

## 「現在の世を表す山」～羽黒山～

羽黒山は、蜂子皇子が現在の世を生きる人々を救う仏(聖観世音菩薩)を祀ったと伝わり、出羽三山の中で最も低く村里に近い、人々の現世利益を叶える山であったことから「現在の世を表す山」と言われます。



国宝 羽黒山五重塔

羽黒山の入り口、随神門から山頂までの約2kmの参道は、日本屈指の段数を誇る2,446段の石段と両側に高さ太さを競うように立つ樹齢300～500年の杉並木が続きます。参



羽黒山の石段と杉並木

道を進むとまず、開山当時から人々を見守り続ける樹齢1,000年を超える爺スギと、色彩を施さない素木造りの国宝五重塔が現れ、長い年月の風雪に耐えて凜と佇む姿は、見る者の心を捉えます。そして清々しい空気と静寂の中、石段を一段一段登り進めるうちに身も心も洗われて、深く自分を見

つめ直すことができます。山頂にある三神合祭殿は豪雪にも負けぬよう厚さ2.1mの茅葺屋根を持ち、羽黒山の祭神とともに、雪が深く冬期間の参拝ができない月山と湯殿山の祭神を合祀しています。人々はここで、国家安寧、五穀豊穰、諸願成就などの現在の世での願いを託すとともに『生まれかわりの旅』の成就を願い、月山、湯殿山を目指して旅を続けます。

## 「過去の世を表す山」～月山～

この地域では、太古の昔から、高くそびえる山に祖先の霊が登るといふ信仰があります。出羽三山で一際高く美しい姿を持つ月山は、「祖霊が鎮まる山」として崇められ、羽黒修験道では死後の世界は過去とみなされることから、月山は「過去の世を表す山」と言われます。

月山八合目には、極楽浄土を意味する弥陀ヶ原と呼ばれる湿原があります。ここでは、高山植物が咲き乱れ、また斜面を覆う万年雪から流れてくる冷気を感じます。その先の「行者返し」と呼ばれる急斜面や険しい岩場を越え、ようやく到達する山頂の「月山神社」に祀られる、夜を司る神(月読命)に死後の安楽と往生を願います。よく晴れた日で下界が雲海に遮られた時、月山の山頂では突然見事な光輪が仏の御来迎のごとく現れることがあります。この神秘的な現象に遭遇した人々は、月山は過去の山という思いを一層強めました。



月山の弥陀ヶ原湿原

### 「未来の世を表す山」～湯殿山～

湯殿山は、頂部からお湯の湧き出る赤色の巨岩である御神体ごしんたいに新しい命を産み出す女性の神秘を重ね、全てのものを産み出す山の神おおやまつみのみこと（大山祇命）が祀られたことから「未来の世を表す山」と言われます。



湯殿山の滝行を行う御滝

参拝者は、大自然の中で裸足はだしになって御神体ごしんたいに触れ、掌てのひらと足の裏に伝わる地熱の温かさを大地のエネルギーとして体の中で受け止めます。また湯殿山は、斜面が大きく崩れたむき出しの岩肌や、点在する大小の滝など野性味あふれる自然の特徴を活かし、滝行たきぎょうや御沢おさわ駆けなどの「荒行あらぎょう」が行われる行場ぎょうばでもあります。その苦しい修行は産みの苦しみを表すとも言います。湯殿山は訪れる者にまさに自然への畏怖いふと圧倒的な生命力を強く感じさせるので、人々はこの山に生まれかわりを祈ります。

### 今に息づく『生まれかわりの旅』

出羽三山を目指す人々は、山形県の内陸部と海岸部を結ぶ「六十里越街道ろくじゅうりごえかいどう」と呼ばれる陸路や最上川舟運もがみがわを利用し、三山周辺に点在する「八方七口はっほうななくち」と呼ばれる登拝口とはいぐちから登りました。江戸時代、菅笠すげがさと死者の衣装を意味する白装束しろしょうぞくをまとった参拝者の列は、笠が波打つほどに連なると言われます。街道や関所、登拝口周辺には寺や賄い小屋まかなが建ち、宿坊街が形成されて、地域に暮らす人々は、参拝者の旅の支度を整え、もてなすことを生業なりわいとしました。



六十里越街道

中でも羽黒山麓の手向地区は、江戸時代には 300 を超す宿坊が営まれて大いに賑い、今も山伏が営む宿坊が参拝者を迎えます。山伏は、春から秋は参拝者を山に案内し、冬には東日本各地を回って出羽三山の御利益を広め、参拝者を呼び込むという活動を江戸時代から継続しています。

宿坊をはじめ、多くの民家の軒下には羽黒山の「松例祭の大松明行事しょうれいさい おおたいまつ」で使われた引き綱が魔よけとして掛けられるなど、人々の暮らしと信仰の結び付きを見ることができます。



松例祭の大松明行事

手向の人々は、子どものころから、松例祭をはじめとする羽黒山で行われるお祭りに奉仕することや、参拝者に御祈祷ごきとうをしたり三山を案内する大人の姿に触れる体験を通して、山伏や三山に対する信仰を身近なものとしながら育ちます。青年期には多くの男性が「峰入り」と呼ばれる山伏養成のための修行を重ね、山伏となって『生まれかわりの旅』を支えます。

また、宿坊でふるまわれる精進料理しょうじんにょうりには地元で採れた山菜が豊富に使われ、旅人の身を清め、体調を整えます。それぞれの料理には「出羽の白山島でわ はくさんじま（ごま豆腐）、月山の掛小屋かけごや（月山筍の油揚げ煮）、祓川はらいがわのかけ橋（ふきの油煎り）」など三山の信仰にゆかりのある場所の名がつけられており、山伏が創作した食文化に触れることができます。精進料理の製法は、地域の食文化として発達し、今では家庭料理としても親しまれています。



出羽三山の精進料理

このように出羽三山を巡る『生まれかわりの旅』は、出羽三山信仰が日常の生活に深く根付いた地域に暮らす人々に支えられ、数百年の時を越えて今に息づいています。そして、自然の中に身を置き、自然の霊気や自然への畏怖を感じるこの旅は、訪れる者の心身を潤し、明日への新たな活力を与えます。

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	羽黒山 はぐろさん	未指定	羽黒山は、現在の世を生きる人々を救う仏が祀られ、出羽三山の中で里宮としての役割を持つことから「現在の世を表す山」と言われる。三山を巡る『生まれかわりの旅』の入り口。	鶴岡市
2	羽黒山蜂子神社 はちこじんじや	市有形 (建造物)	羽黒山の開祖とされる蜂子皇子を祀る神社。もとは開山堂であったが、明治7年(1874年)に蜂子神社と改めた。	鶴岡市
3	羽黒山の随神門 ずいしんもん	未指定	羽黒山の入り口。ここから先が神域とされる石段が始まる。明治の神仏分離令以前は仁王門と呼ばれた。	鶴岡市
4	羽黒山の石段	未指定	羽黒山の随神門から山頂まで続く2446段、約2kmの石段。江戸時代に羽黒山の天宥別当 <small>てんゆうべつとう</small> が寄進や浄財を集めて整備したと言われる。約1時間かけてゆっくりと杉並木や五重塔を眺めながら一の坂、二の坂を登り、途中、茶屋で一休みができる。最も急峻な三の坂を越えると山頂に着く。	鶴岡市

5	羽黒山のスギ並木	国特別天然 記念物	羽黒山の随神門から山頂の三神合祭殿 <small>さんじんごうさいでん</small> にいたる約 2 kmの羽黒山参道の両側にならぶ杉並木。総数 580 数株を数える。樹勢すこぶる旺盛なこの杉並木は、江戸時代、羽黒山中興の祖といわれる天宥別当の植栽によるものと伝えられている。	鶴岡市
6	羽黒山の爺スギ <small>じじ</small>	国天然記念物	羽黒山の随神門から山頂までの参道途中にある樹齢 1000 年以上ともいわれる杉の古木。根周り 10.5m、幹囲 8.25 m、高さ 43mに達する。杉並木以前から生育していたもので、羽黒山で最大にして最古のものである。	鶴岡市
7	羽黒山五重塔	国宝	承平年間 (931~38) 平将門の創建と伝えられ、現在の塔は応永 5 年 (1372) 頃に建立されたと言われている。屋根は日本古来の柿 <small>こけらぶき</small> 葺で三間五層の色彩を施さない素木造りという伝統的な手法による全国を代表する美塔の一つ。参道の途中にあり、参拝者の誰もが足を止めて拝まずにはいられない存在。	鶴岡市
8	羽黒山南谷 <small>みなみだに</small>	県史跡	羽黒山の石段参道を「三の坂」の手前で右折して約 400m進んだところにある史跡。江戸時代に羽黒山の天宥別当 <small>てんゆうべつとう</small> が壮大な客殿を造営させた。松尾芭蕉 <small>まつおぼしやう</small> が奥の細道行脚の折に門人曾良 <small>そら</small> と逗留 <small>とまりゆう</small> して「有難や雪をかほらす南谷」、「涼しさやほの三日月の羽黒山」と羽黒の情景を歌に詠んだ。	鶴岡市

9	羽黒山 <small>さいかん</small> 齋館	市有形 (建造物)	羽黒山の石段参道の「三の坂」を登りきったところにある。もとは華蔵院といい、かつて山内には30余の坊があったが全て取り壊される中で、明治の神仏分離の際に神社の「潔齋所」として残った。往時の山伏たちが生活した遺構として今に残る唯一の建物である。現在は、三山参拝の参籠や食事処として、また羽黒山伏による「冬の峰」の参籠所として使用される。	鶴岡市
10	羽黒山 <small>さんじんごうさいでん</small> 三神合祭殿	国重文 (建造物)	羽黒山山頂にある社殿。羽黒山・月山・湯殿山の三山の神々を合祭しているので三神合祭殿と称している。雪に閉ざされる月山と湯殿山の参拝・祭礼を冬期間も行えるように合祀している。本社は入母屋造、茅葺で、文政元年(1818)再建。本殿前の「御手洗池」は鏡池と言われ、古くは「いけのみたま」とも呼ばれ、平安時代から銅鏡が奉納されている。	鶴岡市
11	<small>がつさん</small> 月山	国天然記念物	高く秀麗な姿から太古の昔より信仰を集め、「祖霊が鎮まる山」として「過去の世を表す山」と言われる。弥陀ヶ原湿原、東普陀落、仏生池など信仰にまつわる地名が残る。	鶴岡市 西川町 庄内町
12	<small>がつさんじんじや</small> 月山神社	未指定	月山は「祖霊が鎮まる山」として信仰され、神社に祀られる祭神は月読命である。古は本地仏として阿弥陀如来が祀られ、いずれも死後の世界を司る神仏である。7月1日の山開きから9月15日の閉山までの短期間しか参拝することができない。8月13日に例祭(柴燈祭)が行われる。月の使者とも言われる兎に因み、卯年を御縁年とする。	庄内町

13	ゆどのさん 湯殿山	未指定	全てのものを産み出す山の神（大山祇命）が祭神として祀られ、「未来の世を表す山」と言われる。野性味あふれる自然が広がる湯殿山は、山伏が修行をする「行場」でもある。出羽三山参拝記念に建てられた「湯殿山碑」は東日本各地に数多く分布し、信仰域の広さを示す。	鶴岡市
14	ろくじゅうりごえかいどう 六十里越街道	未指定	出羽三山への参拝者が利用した街道。山形県の内陸部と海岸部を最短距離で結ぶ約 100 km の道。江戸中期から後期には湯殿山への参詣道として栄えた。地元住民による復元が進み、石畳や茶屋跡の石垣などが発掘されている。また、かつて参拝者を迎えた旅籠屋があった田麦俣地区や、山伏が滝行を行ったと言う「セツ滝」が街道沿いにある。	鶴岡市 西川町
15	旧遠藤家住宅	県有形 (建造物)	六十里越街道の途中、田麦俣地区には出羽三山への参拝者を迎えた旅籠屋があった。旧遠藤家住宅は、雪深いこの地域の生活を今に伝える茅葺屋根の寄棟兎造の多層民家である。	鶴岡市
16	きよかわせきしよあと 清川関所跡	未指定	最上川舟運を利用した参拝者を迎えた関所であり、清川で舟を下り五所の王子（現御諸皇子神社）を拝して、鉢子集落から羽黒古道を経て、羽黒山に向かった。	庄内町

17	はぐるこどう 羽黒古道	未指定	蜂子皇子が羽黒山に登った場所と言われる鉢子集落の登山口から羽黒山に至る古道。出羽三山を開山した蜂子皇子ゆかりの遺跡やマンサクなどの山野草が見られる。	庄内町
18	はっほうななくち 八方七口	未指定	出羽三山周辺に点在する登拝口。寺や賄い小屋が建ち、宿坊街が形成されて参拝者を迎えた。	鶴岡市 西川町
19	月山神社 出羽神社 湯殿山神社 撰社 月山出羽湯殿山三神社 社殿 (旧日月寺本堂)	国重文 (建造物)	登拝口の一つ「岩根沢口」にある、月山・羽黒山・湯殿山の三神を祀る神社。嘉慶元年(1387)後小松天皇の時代に創建。その後三度の火災に遭い、天保12年(1841)に再建。桁行約65m、梁間約22mの長大な規模の建物。宿場集落としての面影も残されている。旅人はここで祈りを捧げ三山を目指す。	西川町
20	ほんどうじあと 本道寺跡	未指定	登拝口の一つ「本道寺口」にある別当寺(神社の祭司や管理を行う寺)。二十数軒の宿坊があった門前集落も「本道寺」と言い、庶民信仰の証である代参塔群が見られるなど出羽三山への参詣者でにぎわった当時の面影を残す。	西川町
21	だいさんとうぐん 本道寺代参塔群	町史跡	参拝が困難な信者が多額の寄進を行って住職に代参を依頼する信仰形態があったことを伝えるもの。その際、寄進額の一部を使って建立されたものが代参塔。	西川町

22	だいにちじあと 大日寺跡	町史跡	登拝口の一つ「大井沢口」の別当寺。西川町大井沢集落にその跡を残す。「大井沢口」の中興の祖である道智上人が大日寺に至る道智道と呼ばれる行者道を整備したことから、関東、福島、置賜方面からの参拝者でにぎわった。	西川町
23	だいにちじあと 大日寺代参塔群	町史跡	参拝が困難な信者が多額の寄進を行って住職に代参を依頼する信仰形態があったことを伝えるもの。その際、寄進額の一部を使って建立されたものが代参塔。	西川町
24	だいにちぼうにおうもん 大日坊仁王門	県有形 (建造物)	登拝口の一つ「大綱口」の別当寺である大日坊の仁王門。仁王門をくぐり大日坊にお参りしてから山に登る。大日坊は湯殿山行者の修行道場として繁栄した寺で、即身仏を安置している。	鶴岡市
25	大日坊の皇壇スギ	県天然記念物	登拝口の一つ「大綱口」の大日坊の旧境内にそびえたつ杉の巨木。根周り約 8 m、幹囲約 6 m、高さ 27m、推定樹齢 1800 年。湯殿山へ向かう参詣道「六十里越街道」の要所にあり、修験者はこの杉に手をあわせ、修行の成就を祈る。	鶴岡市
26	ちゅうれんじ 注連寺	市天然記念物	登拝口の一つ「七五三掛口」にある注連寺の境内に咲く樹齢約 200 年のカスミザクラ。湯殿山の御縁年の丑年にはひとりで注連が掛かるという伝説がある。弘法大師がこの樹の下で修行したと言われる。花卉の色が咲き始めは白く、散り際になると深い桃色へと変化する神秘的な魅力があり、参拝者の目を楽しませる。注連寺は湯殿山行者の修行道場として繁栄した寺で、即身仏を安置している。	鶴岡市

27	とうげ しゅくぼうがい 手向の宿坊街	鶴岡市歴史的 風致維持向上 計画重点区域	出羽三山への参詣者のための宿坊街の一つ。かつては宿坊数 336 坊を誇った。明治時代の神仏分離政策以降に坊数は減少して現在は 30 数件となったが、昔と変わらぬ活動を続けており、往年の宿坊街の面影をよく残している。山伏が経営する宿坊では、参拝者に参拝の手順を教え、登拝の先達役となる。三山独特の精進料理を継承し提供している。	鶴岡市
28	しょうぜんいんこがねどう 羽黒山正善院黄金堂	国重文 (建造物)	羽黒山の門前町、手向地区にある山伏の修行の場。古くは羽黒山頂の大金堂（現在の三神合祭殿）に対し、麓の「小金堂」と呼ばれた。また、明治時代の神仏分離政策の際、大金堂の三尊像（聖観世音菩薩、阿弥陀如来、大日如来）は、正善院於竹大日堂に遷座された。於竹大日如来は、江戸と出羽国を行き来する山伏による出開帳などで広められ、江戸庶民を出羽三山に呼び込んだ。	鶴岡市
29	しょうれいさい おおたいまつぎょうじ 松例祭の大松明行事	国無形民俗	松例祭は、地元の手向地区から選ばれた「松聖」とよばれる 2 名の長老山伏が主役の祭りで、「冬の峰」100 日間の修行で得た験力が試される祭りでもある。「大松明行事」は、開祖蜂子皇子が悪鬼を退治して疫病を鎮めたという故事に由来する。悪鬼に見立てた大松明に放たれた火が柱のように立ち上り、宵闇を染めていく様は幻想的でもあり、こうして災厄は焼きつくされ山頂は新しい年を迎える。	鶴岡市

30	羽黒山の峰入り <sup>みねいり</sup>	未指定	<p>「峰入り」は、開祖蜂子皇子<sup>はちこのおうじ</sup>の修行をたどる羽黒山伏の修行。「夏の峰」は三山を駆ける夏山登拝を意味する。「秋の峰」は、山伏養成を目的として約1週間の山籠りを中心とする修行を行うなど、日本で唯一本来の山伏修行の形を伝えると言われる。「冬の峰」は100日間の参籠修行で、100日目の満願の日にあたる大晦日に羽黒山山頂で毎年行われる「松例祭」では、修行で得た験力<sup>げんりき</sup>を披露する。羽黒山では今もなお、多くの修験者が修行し、出羽三山神社「秋の峰」には約150名が、1993年、開山1400年を機に女性を対象として創設された「神子修行道場<sup>みこ</sup>」という山伏修行には毎年60～70名が参加している。</p>	鶴岡市
31	出羽三山の精進料理 <sup>しょうじんりょうり</sup>	未指定	<p>出羽三山の精進料理は、月山などの奥深い山で生活するために「生きるための食」として山伏が創作し継承されている。必要な食材を山の恵みとして採集し、食材の乏しい厳しい冬を乗り越えるために、あく抜きや水煮といった時間と手間のかかる調理方法や保存技術が編み出された。出羽三山に参拝する者は、精進料理をいただいて身を清め、山へ向かう準備を整える。</p>	鶴岡市

## 構成文化財の写真一覧

①羽黒山（神橋と祓川）



④羽黒山の石段（2, 4 4 6 段）



②羽黒山蜂子神社



⑤羽黒山のスギ並木



③羽黒山の随神門



⑥羽黒山の爺スギ



⑦ 国宝 羽黒山五重塔



⑩ 羽黒山三神合祭殿



⑧ 羽黒山南谷



⑪ 月山



⑨ 羽黒山 齋館



⑫ 月山神社



⑬湯殿山（滝行を行う御滝）



⑯清川関所跡



⑭六十里越街道



⑰羽黒古道



⑮旧遠藤家住宅



⑱八方七口

(江戸時代、八方七口の一つ本道寺口の様子)



㉑本道寺代参塔群



⑲月山神社出羽神社湯殿山神社撰社月山出羽湯殿山三神社社殿 (旧日月寺本堂)



㉒大日寺跡



⑳本道寺跡



㉓大日寺代参塔群



②4 大日坊仁王門



②7 手向の宿坊街



②5 大日坊の皇壇スギ



②8 羽黒山正善院黄金堂



②6 注連寺 七五三掛桜



②9 松例祭の大松明行事



⑩羽黒山の峰入り



⑪出羽三山の精進料理



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
20	自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」 ～樹齢 300 年を超える杉並木につつまれた 2,446 段の石段から始まる 出羽三山～

## (1) 将来像 (ビジョン)

出羽三山の雄大な自然と日本を代表する精神文化を未来へつなぐ  
～次世代が誇れる・憧れる持続可能な出羽三山地域を実現～

## 【目指す姿 1】〔来訪者視点〕

○精神文化の体験を通して新しい気づきや発見が生まれ、何度でも訪れたい地域  
・出羽三山地域への訪問者が、1400年前から連綿と続く出羽三山の歴史的・文化的価値を、出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーが誇る精神文化体験や、出羽三山信仰が日常の生活に深く根付いた地域に暮らす人々との交流等を通じて、ストーリーの背景にある「自然を尊敬し、感謝する心」に触れる事により、「心の安らぎや癒し」、「新しい気づきや発見」を感じ、出羽三山「生まれかわりの旅」のファンとなり、リピーターとなり、何回でも訪れたい地域となっている。

## 【目指す姿 2】〔地域住民視点〕

○自然を尊敬し感謝する心と、郷土への誇りと愛着が生まれる地域  
・出羽三山「生まれかわりの旅」を活用した学校教育や郷土学習が多世代に行われており、地域住民が、出羽三山の雄大な自然や歴史・文化に誇りと愛着を感じ、自ら語り、活かした地域活動が活発に行われている。また、その姿が来訪者を惹きつける魅力となっている。来訪者を温かく迎える環境が整い、地域住民と来訪者との交流機会と地域活性化活動の達成感が生み出されている。

## 【目指す姿 3】〔民間事業者視点〕

○高い経済波及効果と地元への還元を生み出す地域  
・観光事業者や交通事業者によって、出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを軸とした魅力的な地域資源（ヒト、モノ、コト）に出会う旅行商品が造成されることで、観光客の増加や、地域経済の活性化（参拝、宿坊・宿泊施設、ガイド、飲食・物販店等の利用や一次産業を含めた消費の拡大）などにつながり、地域の民間事業者が持続的に収益を得ることができている。  
・体験プログラムの高付加価値化や受け入れ体制強化により、周遊エリアの拡大、滞在の長期化、消費単価の底上げ等、地域への波及効果（還元率）が高い事業が実施されている。  
・また、これらは地域住民からの理解のもとで実施されている。

#### 【目指す姿4】〔共通の視点〕

○ひとりではなくみんなで守り伝える地域

- ・次世代の担い手確保に向けて、担い手育成や、関係人口を創出するための取組み、移住・定住促進に向けた取組み等が実施されている。
- ・文化財や景観の維持管理への協力（構成文化財の維持管理修繕等）や寄付（ふるさと納税、クラウドファンディング等）の仕組みがつけられている。
- ・来訪者や地域住民、民間事業者等が構成文化財の意義やその保存の重要性を改めて意識し、共通して「出羽三山の精神文化を次世代に伝える」という認識を持ち、自らがステークホルダーとなって地域活性化活動が行われている。

#### 【地域の長期的構想（総合計画等）への位置づけ】

##### 山形県

第4次山形県総合発展計画、山形県文化財保存活用大綱、山形県文化推進基本計画、第2次おもてなし山形県観光計画、第6次山形県教育振興計画の長期構想において、日本遺産を観光振興、文化振興及び教育振興に活用することで、その価値を再認識し、地域への愛着を深め、地域における持続的な保存と活用の取組みにつなげていく施策を推進することとしている。

##### 鶴岡市

第2次鶴岡市総合計画及び鶴岡市歴史的風致維持向上計画において、日本遺産として評価された地域資源を活用し、観光誘客を促進するとともに、地域固有の風情、情緒、佇まいを醸し出している良好な環境を維持・向上させ、魅力ある地域の形成を図ることで、活性化と交流人口の拡大を推進することとしている。

##### 西川町

第6次西川町総合計画後期基本計画において、出羽三山文化復興プロジェクトを通して町民が自慢できる文化・町外の方が憧れる文化づくりを推進している。

合わせて、西川町観光ビジョンにおいて、日本遺産を出羽三山山岳信仰で栄えた本町の文化的資産の一つと捉え、広域的な連携を強化しながら観光ブランドとして効果的に活用することで、旅行者の知的欲求を満足させ、精神性を高める歴史・文化観光資源につなげていくための施策を展開していくこととしている。

##### 庄内町

月山の頂を有する庄内町では、第2次庄内町総合計画後期基本計画の策定にあたり、町民幸福度アンケート（令和元年度）を実施しており、自然環境が豊かであることが町の魅力であると半数以上から回答をいただいている。その自然資源を活かすため、第3次庄内町観光振興計画では、日本遺産の雄大な自然や歴史・文化、地域の人材という多彩な地域資源を活用して、テーマ、コンセプト、ストーリー性のある体験型観光を行うことで、住民と来訪者が共に楽しみ、守り育てていくことを目指している。

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：構成文化財の来訪者数

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	1,005千人	517千人	未集計	710千人	910千人	1,010千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成市町の観光者数調査により、構成文化財の来訪者数を把握する。コロナ禍の影響を考慮し、令和6年度(2024年度)までの3か年をかけて、令和元年度(2019年度)の実績数の水準を上回るよう段階的な回復を目指す。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：地域住民が日本遺産を誇りに思う割合

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	—	—	56%	59%	62%	65%
目標値の設定の考え方及び把握方法	山形県文化振興・文化財活用課の日本遺産アンケート調査により、日本遺産のストーリーを認知している構成市町の住民のうち日本遺産のストーリーを誇りに思うと回答した割合を把握する。誇りを「とても感じる」と回答した割合を、毎年度3%増加を目指す。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること

指標③－A：地域のガイド利用料収入

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	6,529千円	1,021千円	3,256千円	4,600千円	5,900千円	6,600千円
目標値の設定の考え方及び把握方法	構成市町及び観光協会の実態調査により、ガイドの利用料収入を把握する。コロナ禍の影響を考慮し、令和6年度(2024年度)までの3か年をかけて、令和元年度(2019年度)の実績数の水準を上回るよう段階的な回復を目指す。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財が活用可能な状態にある割合						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	100%	97.1%	97.1%	97.1%	97.1%	100%
目標値の設定の考え方 及び把握方法	構成市町の実態調査により、構成文化財の状態を把握する。災害により一部通行止めとなっている六十里越街道（西川町側）の復旧を図るとともに、他の構成文化財が活用可能な状態を維持する事により、令和6年度（2024年度）に100%活用可能な状態を目指す。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の観光入込数						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	7,566千人	4,356千人	未集計	5,400千人	6,900千人	7,600千人
目標値の設定の考え方 及び把握方法	構成市町の観光者数調査により、構成市町の観光入込数を把握する。コロナ禍の影響を考慮し、令和6年度（2024年度）までの3か年をかけて、令和元年度（2019年度）の実績数の水準を上回るよう段階的な回復を目指す。					

### (3) 地域活性化のための取組の概要

#### 【地域の現状】

出羽三山地域は、山形県の中央に位置する出羽三山（羽黒山、月山、湯殿山）の雄大な自然と今に息づく精神文化（山形県文化基本条例において「自然を尊び、自然に感謝する心が生み出した文化」と定義）を最大の魅力とする地域であり、1400年前に開山したといわれる羽黒山を中心に、自然信仰に仏教や密教が混じり生まれた日本独特の山岳信仰があり、信仰に由来する固有の文化や生活様式が今も地域の人々の手で継承されている。

この地域には、国宝「羽黒山五重塔」をはじめ、国指定特別天然記念物「羽黒山スギ並木」、国指定重要無形民俗文化財「松例祭の大松明行事」など、数多くの文化財が存在している。こうした文化財が今に伝わる歴史を紡いだこの土地ならではのストーリー（出羽三山「生まれかわりの旅」）は、平成28年度の日本遺産認定を契機として、山形県おもてなし観光計画において「精神文化ツーリズム」として掲げられている。山伏修行や巡礼体験、そして鶴岡市の「ユネスコ食文化創造都市」認定を象徴する出羽三山精進料理等の豊かな食文化体験は、観光誘客における魅力的なコンテンツとなっており、国内の観光客だけでなく、日本の伝統文化に関心の高い欧米豪を中心とした外国人観光客を惹き付けている。

また、六十里越街道や羽黒古道、清川関所跡等の未指定の構成文化財は、日本遺産認定をきっかけにストーリーの中で魅力を掘り起こされ、現在、構成文化財保存・活用団体と市町の官民一体となった連携により、地域活動が行われている。

一方で、少子高齢化や人口減少による出羽三山文化を継承する担い手の減少や、ガイドの高齢化、ストーリーを構成する歴史的建造物や景観・自然環境等の地域資源を守るための資金確保等の課題が存在している。また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、地域経済に観光客の減少、収入減といった直接的な影響を及ぼしており、ポストコロナに向けた対応等の課題が存在している。

#### 【これまでの成果・課題】

##### 1 観光振興に関する成果と課題

認定後、構成文化財の解説板やポータルサイト等のストーリーを伝える基礎的な整備に加えて、ガイド養成やインフラ整備等の受入環境整備が進められてきたほか、令和元年度に新設された鶴岡市をマネジメントエリアとする地域DMOであるDEGAM鶴岡や観光協会等の民間事業者が主体となり、国内は主に首都圏や近県及び県内、国外は主に欧米豪をターゲットとした出羽三山の精神文化を活かした質の高いプログラムの企画や旅行商品の造成、そして山形県全体としての広域的なプロモーションの実施により、インバウンドの拡大、日本遺産ランキング1位の獲得（令和元年度日本経済新聞）、ガイド利用者の増加等の成果が得られている。令和4年度から6年度までの本計画期間においては、ビジョンの実現に向けて、以下の課題に取り組む必要がある。

##### 課題1 ニーズを捉えた滞在型コンテンツの充実

- ・ポストコロナを見据えた本物に触れる旅への深化
- ・出羽三山地域の観光誘客戦略
- ・西川町と庄内町の歴史的・文化的ストーリー・資源磨き上げ

- ・地域間の連携事業強化
- ・マーケティング戦略に基づく情報発信
- ・二次交通の充実
- ・ガイド体制の強化

## 2 普及啓発に関する成果と課題

認定後、構成市町における学校との連携した学習活動やいでは文化記念館等の文化施設を中心とした学習体験機会の創出がなされている。令和3年度には協議会で出羽三山伝統文化体験事業を実施した。これまで携わった地域プレーヤーと連携し、親子向けの体験機会を創出することで日本遺産の高い認知度や地域への誇りと愛着の醸成につながっている。令和4年度から6年度までの本計画期間においては、ビジョンの実現に向けて、以下の課題に取り組む必要がある。

### 課題2 多世代への普及啓発促進

- ・義務教育以外の普及啓発機会の不足
- ・コロナ禍をきっかけとした教育旅行需要への対応強化
- ・日本遺産のストーリー理解に向けた一層の取組み

## 3 基盤強化に関する成果と課題

認定後、日本遺産に関する取組みを行うための基盤づくりに向けて、出羽三山「生まれかわりの旅」を活用した情報発信や旅行商品の造成、令和元年度以降協議会事業として実施してきた人材交流・育成事業への参画等へ多くの地域団体や民間事業者等から継続した協力が得られており多様な地域プレーヤーの見出しと協業にもつながっている。令和4年度から6年度までの本計画期間においては、ビジョンの実現に向けて、新たに見えてきた以下の地域課題にも取り組む必要がある。

### 課題3 継承のための担い手及び資金の確保

- ・地域人口の減少
- ・構成文化財・保存活用団体の後継者不足
- ・新たな資金調達の検討

以上の課題を踏まえ、ビジョンを実現するため、以下の柱立てと基本的な取組みを行う。

### 【柱1：観光振興】日本を代表する出羽三山の精神文化ツーリズムの推進(課題1に対応)

地域への来訪者が出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを活用した精神文化体験メニューを通し、「自然を尊敬し、感謝する心」や「心の安らぎや癒し」、「新しい気づきや発見」を感じる機会を地域全体で創出し、周遊の拡大、ファン・リピーターの獲得につなげるため、DMOと市町の連携による精神文化観光戦略の立案とともに、山伏修行や巡礼体験等の精神文化体験の充実やガイドの利用拡大等の取組み強化へと展開していく。また、インバウンド需要回復を見据えて、ポストコロナの旅行スタイルとして注目されてい

る「自然、文化体験、アクティビティ」の要素を持つアドベンチャートラベルを切り口としたプロモーション等の取組みを推進する。基本的取組みは以下のとおり。

- ①DMOや市町の連携による精神文化観光戦略の立案・展開
- ②出羽三山が誇る精神文化体験型コンテンツの充実と多様な歴史・文化的資源の磨上げ
- ③他の日本遺産や地域間連携による周遊促進
- ④日本を代表する「精神文化の聖地出羽三山」の戦略的な情報発信とプロモーション
- ⑤ガイド体制の強化・充実、二次交通等の受入環境整備

**【柱2：普及啓発】自然への感謝と郷土を誇る心の醸成(課題2に対応)**

地域の住民が出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを活用した精神文化体験メニューを通し、出羽三山の精神文化の背景にある「自然を尊敬し、感謝する心」を多世代にわたり育み、郷土を誇る心を醸成するため、地域内では幼少期からの体験機会の充実等の取組みを強化していくとともに、地域内外で出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーに関心を高める機会を創出する。基本的な取組みは以下のとおり。

- ①親子での体験学習や住民による勉強会等、多世代の普及啓発
- ②構成文化財を活用した交流の促進
- ③拠点施設を通じた普及啓発、交流の促進
- ④教育旅行への活用促進
- ⑤更なる日本遺産のストーリー理解向上

**【柱3：基盤強化】自然と信仰が息づく出羽三山を未来へ繋ぐ基盤づくり(課題3に対応)**

地域内外の方が中長期的に地域に携わる機会を創出し、出羽三山文化を応援する基盤を強化するため、柱2で掲げた取組みに加えて、大学や企業との連携による若者参画等の取組みを強化するとともに、関係人口創出や出羽三山文化を応援する資金確保の仕組みづくりを検討していく。基本的な取組は以下のとおり。

- ①大学・企業等との連携による若者参画
- ②体験等を通じた関係人口創出
- ③出羽三山文化を守る担い手育成
- ④出羽三山文化を応援する資金確保の仕組みづくりの検討

**(4) 実施体制**

協議会名称：出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会

構成団体：

**【山形県】観光文化スポーツ部**

文化振興・文化財活用課（事務局、文化財保護、文化観光推進）

観光復活戦略課（広域的観光振興）

精神文化・インバウンドプロモーション室（広域的観光振興）

教育庁生涯教育・学習振興課（生涯学習振興、学校教育連携）

村山総合支庁観光振興室（広域的観光振興）

西村山連携支援室（広域的地域振興）

庄内総合支庁観光振興室(広域的観光振興)

【鶴岡市】商工観光部観光物産課(観光振興)

羽黒庁舎産業建設課(観光振興、地域振興連携)

朝日庁舎産業建設課(観光振興、地域振興連携)

教育委員会社会教育課(文化財保護、生涯学習振興、学校教育連携)

【西川町】商工観光課(観光振興、地域振興連携)

教育委員会生涯学習課(文化財保護、生涯学習振興、学校教育連携)

【庄内町】商工観光課(観光振興、地域振興連携)

立川総合支所立川地域振興係(観光振興、地域振興)

教育委員会社会教育課(文化財保護、生涯学習振興、学校教育連携)

【民間企業・団体】

山形県観光物産協会(広域的観光振興)【地域連携DMO】

DEGAM鶴岡ツーリズムビューロー(観光分野における地域の主要オーガナイザー)【地域DMO】

羽黒町観光協会(いでは文化記念館運営、地域の観光振興実働者、歴史的・文化的な知見からの助言指導)

あさひむら観光協会(月山あさひ博物村文化創造館運営、地域の観光振興実働者)

月山朝日観光協会(地域の観光振興実働者)

庄内町観光協会(地域の観光振興実働者)

月山神社出羽神社湯殿山神社(文化財所有者、文化財保護・文化観光推進の主要パートナー、歴史的・文化的な知見からの助言指導)

致道博物館(文化財所有者、文化財保護・文化観光推進の主要パートナー、歴史的・文化的な知見からの助言指導)

東北観光推進機構(広域的観光振興)【広域DMO】

庄内観光コンベンション協会(広域的観光振興)

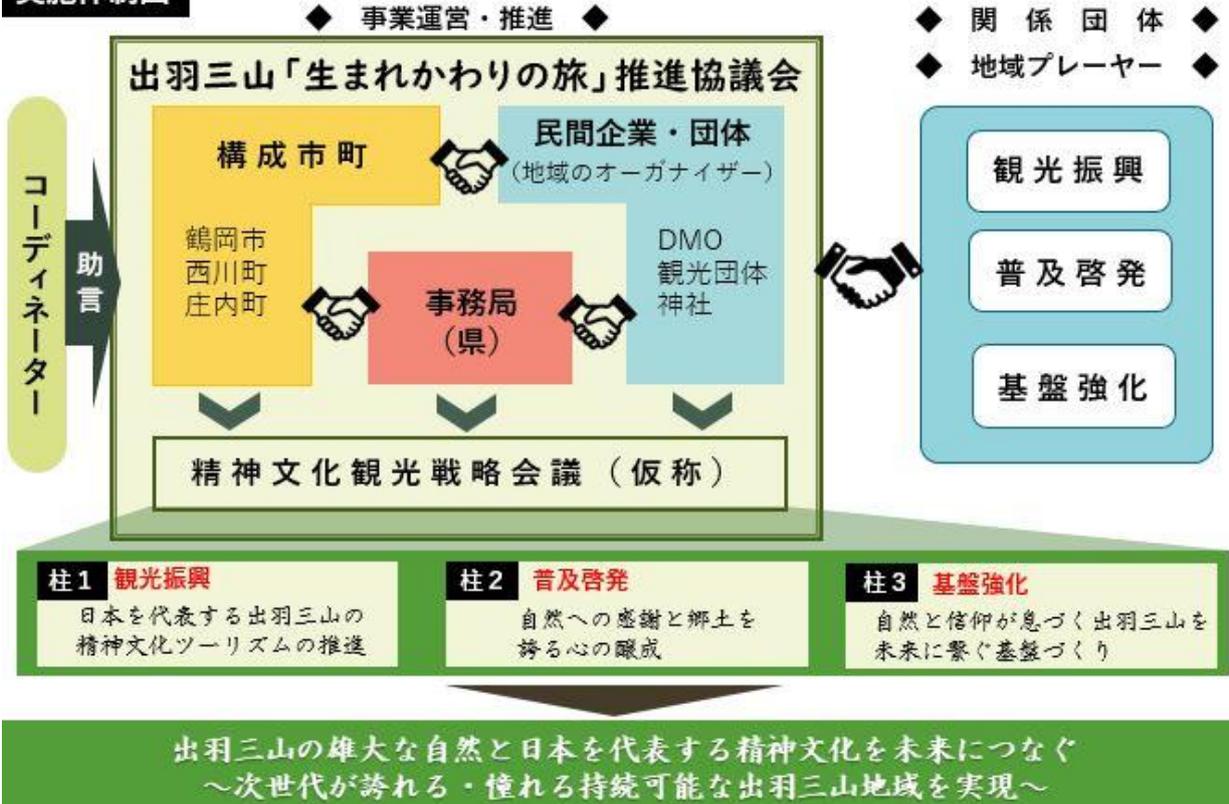
【連携する関係団体・地域プレーヤー(主な想定)】

項目	関係団体・地域プレーヤー	内容
事業推進	(株)山形アドビューロ	助言・コーディネート
観光振興	構成文化財保存・活用団体、ガイド団体、旅行会社、交通事業者、宿坊・宿泊施設、道の駅・産直等立寄施設、文化施設、大学機関、報道機関、地域おこし協力隊、地域協議会(国宝羽黒山五重塔ライトアップ実行委員会、あさひむら特産品開発協議会、庄内町新産業創造協議会等)、他の日本遺産協議会	旅行商品企画・販売、商品開発・販売、体験コンテンツ提供、情報発信
普及啓発	小・中・高等学校・大学機関、宿坊・宿泊施設、文化施設、構成文化財保存・活用団体、地域おこし協力隊、地域協議会(西村山地域広域連携)	体験プログラムの企画・提供、出前講座、人材育成、情報発信

	協議会、山形県教育旅行誘致協議会等)	
基盤強化	大学機関、企業、構成文化財保存・活用団体、ガイド団体、地域おこし協力隊	人材育成、若者参画

※具体的な連携先及び内容は、(7)地域活性化のために行う事業に記載

### 実施体制図



- ・観光振興はDMOや民間事業者が主体となり事業を実施する体制を継続
- ・地域間の事業連携を強化するため、精神文化観光戦略会議（仮称）を設置し、テーマ別のワーキングを必要に応じて開催
- ・関係団体・地域プレイヤーと連携した事業推進を図るため、協議会への助言とコーディネートを行う専門人材を配置（いせでわDMO（地域連携DMO候補法人）・出羽三山門前町プロジェクト（民間の地域協議会）事務局、他の日本遺産事業のノウハウと知見）

#### [人材育成・確保の方針]

##### 1. 小中学生への対応

地域内の中長期的な人材確保のため、小中学生に対しては、これまで実施してきた学校での副読本等の活用や出前授業、文化施設での学習活動を継続的に実施していき、幼少期からの体験を通じた学びの機会を創出していく。

##### 2. 高校生・大学生、企業等への対応

県内の高校や、大学機関との連携を図り、若者視点での出羽三山文化の魅力発信やフィールドワーク等を実施することにより、高校生や大学生等の若者参画を促す。また、若手社員の研修におけるストーリー体験受入等をきっかけとした企業とのパートナー関係の構築につなげていく。

### 3. 出羽三山文化に興味を持った地域外の人への対応

出羽三山文化に興味を持った人が、より地域と関わりを持ち、将来的には出羽三山文化の担い手として移住・定住してもらう事も見据え、地域プレーヤーやガイド団体等と連携した関係人口を創出する場を創出していく。

#### (5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

##### 1. 組織体制

本協議会は、行政関係は観光関係課、地域振興関係課、文化財関係課により構成されており、民間事業者関係はDMOや観光協会等の民間事業者が参画、文化観光を実施するために必要な組織体制が整備されている。旅行業者や交通業者等からも、DMOや観光協会等の会員を中心に日本遺産の取組みへの協力が得られており、事業者の自主的で継続的な取組みも実施されている事から、引き続き、観光関係者や民間事業者の参画体制を継続していく。令和4年度から6年度までの本計画期間においては、柱3で掲げた基盤強化の取組みを新たに実施する事で、大学及び企業等、更なる地域プレーヤーとの連携体制を強化する。

##### 2. 事業実施

協議会運営と事業の財源は県及び構成市町の負担金で賄っている。柱1及び柱2で掲げた観光振興と普及啓発の取組みは構成市町及びDMOや観光協会等の民間事業者が中心となって実施されており、今後もこれを継続していく。協議会としては各構成団体の事業連携による高い地域活性化効果を創出するため、柱1で掲げたDMOや市町の連携による精神文化観光戦略の立案・展開や、柱3で掲げた基盤強化等、地域間連携の強化や中長期的な人材確保にかかる広域かつ公的な要素の強い事業に財源を拠出し実施する事で、構成団体の取組みを補完するとともに日本遺産出羽三山地域として自走・自立を促していく。

なお、中長期的な組織の自立・自走に向けて、構成団体における事業収入の一部還元や金融機関等によるファンド等の公的資金以外の獲得を検討していく。

#### (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財の保存と活用の好循環を創出するために、以下の2点を重点的に取組む。

##### 1. ストーリー体験を重視した活用の促進

取組みの柱1及び柱2で掲げたとおり、出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリー体験を重視した取組みを進める事で活用の促進を図っていく。

柱1では、DMOと市町の連携による精神文化観光戦略の立案・展開により、来訪者の来訪歴やニーズを踏まえた、出羽三山の精神文化を活かした体験プログラムの造成、構成文化財を拠点に活動するガイドの養成、周辺環境整備、認知・来訪・体験の動線を意識した情報発信の取組みを一体的に進める事で、出羽三山への誘客拡大、ファン・リピーターの獲得につなげ、観光事業者の収益増加だけでなく、周辺の事業者にも波及効果が生まれ、地域経済の活性化の成果が構成文化財の保存のための資金獲得の動きにつながり、構成文

化財の保存に還元される事が期待される。

柱2では、地域内では幼少期からの体験学習機会を創出し、多世代にわたり出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーの理解促進を図る。学校との連携による学習活動や、住民への郷土学習を行うとともに、出羽三山「生まれかわりの旅」の拠点施設においても多世代にわたる体験学習機会を創出する。これにより、地域住民自ら出羽三山「生まれかわりの旅」の魅力を語り、ストーリーの背景にある自然を尊敬し感謝する心と、郷土への誇りと愛着の醸成につなげていく。あわせて、地域内外で出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーに関心を高めるきっかけとなる体験イベントを創出する事で、これまで関心の無かった層への普及啓発を図る。

柱1及び柱2の取組みが連動する事で、出羽三山地域が日本遺産としての魅力度を一層高め、地域内外で出羽三山の歴史的・文化的価値を分かち合い、次世代に継承する機運の醸成が図られる。

## 2. 若者参画による人材確保と資金獲得の強化

柱3で掲げたとおり、地域内外の方が中長期的に地域に携わる機会を創出し、出羽三山文化を応援し次世代に継承する基盤となる人材確保と資金獲得を強化する。柱2の取組みに加えて、これまで関わりの少なかった大学や企業との連携による若者参画の取組みを進め、若者ならではの視点やアイデアを構成文化財の保存・活用に活かす機会を創出していく。また、地域外の出羽三山地域への関心層を対象にした地域プレーヤーとの交流機会を創出する事で、関係人口の創出にもつなげる。

ふるさと納税の拡大を図るとともに、寄付金やクラウドファンディング等の外部資金を積極的に獲得し、構成文化財の保存・活用や協議会の各種取組みに活用するための出羽三山文化を応援する資金確保の仕組みづくりを検討していく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会の組織強化		
概要	【柱 1～3 共通】日本遺産事業推進母体として、出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会の組織運営と PDCA サイクルを回す仕組みを整備するとともに、出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーが誇る精神文化体験の戦略的な展開を図るためのワーキングの設置等を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	組織運営・PDCA サイクルを回す仕組みの整備	日本遺産事業の PDCA サイクルを回す仕組みを整備する。具体的には事務担当者における各構成団体の活動等の情報交換と目標値確認の場として年 5 回程度ミーティングを開催する。総会や幹事会において目標指標の達成状況を審議する場を設ける。	協議会
②	精神文化観光戦略会議(仮称)の設置	出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーが誇る精神文化体験の地域全体での戦略的な展開につなげるため、協議会にワーキンググループとして、精神文化観光戦略会議(仮称)を設置する。取組の柱 1～3 を実現するため必要に応じたテーマ別の開催とする。 【例】 柱 1 観光振興(事業番号 2 - A) ・ DMO 及び観光協会等民間事業者参画による体験コンテンツ磨上げ等の検討 柱 2 普及啓発(事業番号 6 - A) ・ 地域の伝統文化継承実践者参画による出羽三山伝統文化体験事業の企画 柱 3 基盤強化(事業番号 3 - A) ・ 地域おこし協力隊の参画による地域プレーヤーとの交流機会創出事業の企画	協議会
③	他の日本遺産団体とのテーマ連携強化	”六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～”、“葛城修験” - 里人とともに守り伝える修験道はじまりの地”等、修験をテーマとして扱う日本遺産団体との連携を図る	協議会

		ためのオンラインミーティングを開催する。ストーリーの相互比較による出羽三山「生まれかわりの旅」ストーリーの更なる価値顕在化や、日本遺産サミットでの共同ブース出展による情報発信等、連携した取組みにつなげる。	
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			1回
2020年	実務担当者ミーティングの開催		2回
2021年			4回
2022年	実務担当者ミーティングの開催		5回
2023年	実務担当者ミーティングの開催		5回
2024年	実務担当者ミーティングの開催		5回
事業費		2022年：400千円 2023年：400千円 2024年：400千円	
継続に向けた事業設計		短期的には、事務局を山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財活用課に設置し、協議会の運営や地域活性化計画の事業進捗状況、目標指標の達成状況を確認する。観光事業についてはDMOや民間事業者が中心となった実施体制を継続するとともに、新たに②及び③の取組みにより、出羽三山地域全体の更なる活性化を図るための地域間及びテーマ連携の場を創出し、中長期的に日本遺産出羽三山地域全体として自走・自立を促す。	

(事業番号1-B)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」構成文化財保存・活用団体の組織強化		
概要	【柱1-⑤、柱3-③関連】出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを地域全体にわたって来訪者に体験してもらうため、更なる磨上げが課題となっている西川町及び庄内町エリアを中心とした構成文化財の保存・活用を行う団体の組織強化を図る。団体は各構成文化財の維持管理だけでなく、ガイド団体が参画又は自らガイドを担う組織であることから、ガイド利用の拡大に向けた取組みも併せて実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出羽の古道 六十里越街道会議運営	構成文化財の六十里越街道について、事業推進母体である出羽の古道六十里越街道会議を運営する。令和3年度策定予定のステップアップビジョンに基づくアクションプランを官民一体で推進するとともに、フォーラムの開催により街道利用やガイド利用の拡大、二次交通等の諸課題の解決を目指す。	西川町 ・ 鶴岡市 朝日庁舎

②	清川歴史公園管理運営委員会組織強化	構成文化財の清川歴史公園を管理する清川歴史公園管理運営委員会の組織体制を強化する事を目的として、観光案内部会や食堂・売店部会におけるガイドスキルアップや情報発信強化のための研修会に参加する。また後継者の確保に向けた会員募集等の効果的手法の検討会を開催する。	庄内町
③	地域おこし協力隊配置	庄内町清川地区内に地域おこし協力隊を配置し、構成文化財の清川関所跡を含む歴史文化資源を活かした地域活性化のため、地元寺社仏閣等を活用した新たな観光資源の発掘や付加価値を上げる取組み、写真や動画を活用した地域資源のデータベース化、清川地区を起点とした出羽三山「生まれかわりの旅」観光コース開発等の企画・実行につなげる。	庄内町
④	羽黒山修験道を守る会の組織強化	構成文化財の羽黒古道修験道を保存活用する羽黒山修験道を守る会の組織体制を強化する事を目的として、ガイドスキルアップや情報発信強化のための研修会に参加する。また後継者の確保に向けた会員募集等の効果的手法の検討会を開催する。	庄内町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	六十里越街道、清川関所、羽黒古道のガイド利用件数		71件
2020年			31件
2021年			34件
2022年	六十里越街道、清川関所、羽黒古道のガイド利用件数		59件
2023年	六十里越街道、清川関所、羽黒古道のガイド利用件数		63件
2024年	六十里越街道、清川関所、羽黒古道のガイド利用件数		83件
事業費	2022年：600千円　2023年：600千円　2024年：600千円		
継続に向けた事業設計	構成文化財を保存・活用する組織として、既に事業の企画・運営は地域住民主体となり、また組織運営等は官民一体となった推進体制が図られているが、中長期的な組織運営の継続を図るため、上記取組みを実施し、体制を強化する。		

## (事業番号 1-C)

事業名		出羽三山「生まれかわりの旅」ふるさと納税推進事業	
概要		【柱 3-④関連】出羽三山文化を応援する資金確保の仕組みづくりのため、クラウドファンディングやふるさと納税、寄付金など外部資金を積極的に獲得し、構成文化財の保存・活用の好循環創出に向けた基盤強化を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	鶴岡市 ふるさと納税事業	鶴岡市が有する3つの日本遺産、山（出羽三山）、里（サムライシルク）、海（北前船寄港地）にちなんだふるさと納税の業周知を強化するとともに、返礼品として日本遺産に関連する体験プログラムの提供等の検討による寄付の拡大を図り、日本遺産関連の文化財の継続的な保存と保全につなげる。	鶴岡市
②	ふるさと納税や寄付金 など外部資金の調達	クラウドファンディングやふるさと納税、寄附金など外部資金を積極的に獲得し、構成文化財の保存・活用や協議会の各種取組みに活用する。また、現在の外部資金調達の取組みを、未実施の構成団体にモデルケースとして横展開し、取組みを広げていく。	構成団体 ・ 協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		—
2020年			—
2021年			9件
2022年	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		10件
2023年	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		14件
2024年	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		18件
事業費	2022年：0千円    2023年：0千円    2024年：0千円		
継続に向けた 事業設計	短期的には、鶴岡市が実施している日本遺産ふるさと納税の取組み事例を、未実施の西川町・庄内町に横展開していくことで、地域全体で構成文化財の保存活用に向けた基盤強化につなげていく。また、ふるさと納税以外にもクラウドファンディングや協賛金の獲得の検討を行う。中長期的には、協議会組織の自立・自走や、構成文化財の保存と活用に向けた安定的な資金獲得につなげる。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」観光誘客戦略の立案・展開		
概要	【柱 1 - ①関連】地域間連携強化による出羽三山「生まれかわりの旅」を活用した出羽三山の本物に触れる旅の深化を図り、出羽三山地域の周遊拡大、ファン・リピーターの獲得につなげるため、出羽三山神社が行う「石段詣」の参加者を対象とする ICT を活用したアンケート調査結果を実施する。そして、来訪者ニーズに応じた精神文化体験コンテンツの磨き上げや商品化、戦略的な情報発信・効果的なプロモーション手法等の検討を行い、具体的な事業展開につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出羽三山神社 「石段詣」と連携した マーケティング調査	出羽三山神社が行う「石段詣」参加者を対象とする ICT を活用したアンケート調査を県立静岡大学との共同研究により実施し、来訪者属性、訪問数、構成文化財の認知度、来訪者のニーズ、満足度等を明らかにする。	DEGAM 鶴岡
②	精神文化観光 戦略会議(仮称)の開催	①の調査結果を踏まえ、来訪者のニーズに応じた精神文化体験コンテンツの磨き上げや商品化、戦略的な情報発信・効果的なプロモーション手法等の検討を行い、具体的な事業展開につなげる。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			—
2020年	連携し磨き上げられた事業数		—
2021年			—
2022年	連携し磨き上げられた事業数		2件
2023年	連携し磨き上げられた事業数		4件
2024年	連携し磨き上げられた事業数		6件
事業費	2022年：1,900千円    2023年：1,900千円    2024年：1,900千円		
継続に向けた 事業設計	事業効果を測定するという調査事業の性質上、継続して事業を行う必要があることから、公的な資金も投入しながら継続を図っていく必要がある。既に実施されているマーケティング調査を活用し、構成自治体の観光統計調査や山形県が推進するデジタルマーケティング等の関連施策とも連動することで、費用対効果の高い事業とする。調査を活用した戦略立案と事業展開に結びつける場づくりを協議会の負担金において拠出し事業継続を図る。中長期的には精神文化観光戦略会議(仮称)によって、立案・展開された事業の収益によって事業が継続可能となるよう効果的な事業とするべく必要に応じて見直しを図っていく。		

## (事業番号2-B)

事業名	構成自治体の長期構想への反映		
概要	【柱1～3共通】持続的・継続的な日本遺産事業を推進するため、日本遺産制度趣旨及び本地域活性化計画を踏まえ、各自治体で定める上位計画に位置づけを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	山形県 文化推進基本計画	【現計画期間：H31年度～R5年度】 令和6年度の改定時に、日本遺産趣旨及び 本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	山形県
②	鶴岡市 歴史的風致維持 向上計画	【現計画期間：H25年度～R4年度】 令和5年度の改訂時に、日本遺産趣旨及び 本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	鶴岡市
③	第7次西川町総合計画	【現計画期間：H25年度～R5年度】 令和6年度の改訂時に、日本遺産趣旨及び 本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	西川町
④	西川町観光ビジョン	【現計画期間：H31年度～R5年度】 令和6年度の改訂時に、日本遺産趣旨及び 本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	西川町
⑤	庄内町観光振興計画	【現計画期間：H30年度～R4年度】 令和5年度の改訂時に、日本遺産趣旨及び 本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	庄内町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	行政計画への位置付け数		11件
2020年			11件
2021年			11件
2022年	行政計画への位置付け数		11件
2023年	行政計画への位置付け数		11件
2024年	行政計画への位置付け数		11件
事業費	2022年：0千円　2023年：0千円　2024年：0千円		
継続に向けた 事業設計	構成自治体では総合計画等の長期構想への反映が既に行われているが、 計画期間内に改訂時期を迎える計画に改めて日本遺産の位置づけを明 記し、継続的な事業を行うための行政的な担保を図る。		

## (7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	出羽三山文化を守る次世代の担い手確保事業		
概要	【柱3-①②③関連】出羽三山文化を守る次世代の担い手確保に向けて、将来的に日本遺産事業に携わる地域プレイヤーを獲得するため、大学生及び企業の若者参画、地域外に住む出羽三山地域への関心層を対象とした地域プレイヤーとの交流機会の創出を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	大学生による出羽三山の魅力発信事業	大学機関と連携して、大学生による若者視点での出羽三山の魅力発信事業を行う。フィールドワーク受入による出羽三山「生まれかわりの旅」体験記事の作成、大学講義におけるプログラム提供、出羽三山伝統文化体験事業への参画等を実施する。	協議会
②	企業の社員研修等のストーリー体験受入促進	企業の社員研修や社会貢献等のための体験受入についての働きかけを行う。ストーリー体験受入をきっかけとした企業とのパートナー関係の構築につなげていく。	協議会
③	地域プレイヤーとの交流機会の創出事業	地域外に住む出羽三山地域への関心層を対象に、地域の担い手としても期待される地域おこし協力隊等と連携して、地域プレイヤーとの交流機会創出事業を実施する。また、地域のガイド団体と連携し、(事業番号3-C)ガイド養成や、(事業番号3-B)受皿となる団体の組織強化の取組みに参加してもらう事で、ガイドの担い手確保につなげる。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	人材交流・育成事業(協議会)への参画者数		12人
2020年			12人
2021年			12人
2022年	本事業への参画者数		5人
2023年	本事業への参画者数		10人
2024年	本事業への参画者数		20人
事業費	2022年：800千円	2023年：800千円	2024年：800千円

継続に向けた事業設計	<p>これまで日本遺産を活用した事業について、大学生等の若者が参画した取組みが無かった事から、中長期的な人材育成の観点から、新たに協議会事業として立ち上げるものである。補助金が終了した自走期間においては、県・市町による負担金によって、人材交流・育成事業を実施し、構成市町・団体と連携して地域プレイヤーの見出しが行われてきたところであるが、その地域プレイヤーとも協力しながら、新しい計画では、若者参画・関係人口創出、将来的には移住・定住にもつながるよう出羽三山文化を守る担い手確保に取り組むものである。地域の人材の確保という収益事業と異なる性質を持つ事業である事から、協議会事業の重要な柱として負担金拠出により事業を企画・実施していく。</p>
------------	---

(事業番号3-B)【事業番号1-Bの再掲】

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」構成文化財保存・活用団体の組織強化		
概要	<p>【柱1-⑤、柱3-③関連】出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを地域全体にわたって来訪者に体験してもらうため、更なる磨上げが課題となっている西川町及び庄内町エリアを中心とした構成文化財の保存・活用を行う団体の組織強化を図る。団体は各構成文化財の維持管理だけでなく、ガイド団体が参画又は自らガイドを担う組織である事から、ガイド利用の拡大に向けた取組みも併せて実施する。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出羽の古道 六十里越街道会議運営	<p>構成文化財の六十里越街道について、事業推進母体である出羽の古道六十里越街道会議を運営する。令和3年度策定予定のステップアップビジョンに基づくアクションプランを官民一体で推進するとともに、フォーラムの開催により街道利用やガイド利用の拡大、二次交通等の諸課題の解決を目指す。</p>	<p>西川町 ・ 鶴岡市 朝日庁舎</p>
②	清川歴史公園管理運営 委員会組織強化	<p>構成文化財の清川歴史公園を管理する清川歴史公園管理運営委員会の組織体制を強化する事を目的として、観光案内部会や食堂・売店部会におけるガイドスキルアップや情報発信強化のための研修会に参加する。また後継者の確保に向けた会員募集等の効果的手法の検討会を開催する。</p>	庄内町
③	地域おこし協力隊配置	<p>庄内町清川地区内に地域おこし協力隊を配置し、構成文化財の清川関所跡を含む歴史文化資源を活かした地域活性化のた</p>	庄内町

		め、地元寺社仏閣等を活用した新たな観光資源の発掘や付加価値を上げる取組み、写真や動画を活用した地域資源のデータベース化、清川地区を起点とした出羽三山「生まれかわりの旅」観光コース開発等の企画・実行につなげる。	
④	羽黒山修験道を守る会の組織強化	構成文化財の羽黒古道修験道を保存活用する羽黒山修験道を守る会の組織体制を強化する事を目的として、ガイドスキルアップや情報発信強化のための研修会に参加する。また後継者の確保に向けた会員募集等の効果的手法の検討会を開催する。	庄内町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			71件
2020年	六十里越街道、清川関所、羽黒古道のガイド利用件数		31件
2021年			34件
2022年	六十里越街道、清川関所、羽黒古道のガイド利用件数		59件
2023年	六十里越街道、清川関所、羽黒古道のガイド利用件数		63件
2024年	六十里越街道、清川関所、羽黒古道のガイド利用件数		83件
事業費	2022年：600千円 2023年：600千円 2024年：600千円		
継続に向けた事業設計	既に構成文化財を保存・活用する組織として、事業の企画・運営は地域住民主体となり、また組織運営等は官民一体となった推進体制が図られているが、中長期的な組織運営の継続を図るため、上記取組みを実施し、体制を強化する。		

(事業番号3-C)【事業番号5-Bに再掲】

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」来訪者の満足度向上事業		
概要	【柱1-⑤、柱3-③関連】地域のガイド団体等を対象として出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを活用したガイド技術向上等の研修会を実施し、ガイド利用拡大と来訪者の満足度向上を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ガイド養成	地域のガイド団体を対象として、来訪者の興味を惹きつけるガイド技術向上等の研修会を実施し、各ガイド団体の持つノウハウ及び各エリアの魅力の共有や来訪歴に応じた説明手法の検討を行う事で、ガイド利用者の満足度向上とリピーターの獲得	構成団体 ・ 協議会

		<p>につなげる。</p> <p>【想定する地域のガイド団体】  いでは観光ガイドの会（羽黒山）、月山観光ガイドの会・月山朝日ガイド協会（月山）、六十里越街道案内人ボランティア・六十里越街道山船頭人協会（湯殿山、六十里越街道）、きよかわ観光ガイドの会（清川関所跡）、羽黒山修験道を守る会（羽黒古道）</p>	
②	日本遺産ガイド 利用拡大	<p>○ガイド情報の整備  ガイド団体や観光協会等のHPにガイド内容や案内コース（距離・時間）、来訪前の必要情報（安全対策、アクセス、便益施設、立寄施設等）、予約機能等を整備するとともに、ガイド利用の促進を図るための実際のガイド中の風景や参加者へのインタビュー等を盛り込んだ動画等を掲載する。また、ガイド前に来訪歴や希望するガイド内容の聞き取りができる仕組みを構築する。</p> <p>○事前周知  ガイド団体のHPや観光協会等のHP、観光立寄施設配置のチラシ・パンフレットより事前周知を図る。また、ツアー造成のはたらきかけのツールとしても活用する。</p> <p>○事後のフォローアップ  1. 利用後のアンケート  ガイド後に満足度向上を図るためのアンケートを実施する。</p> <p>2. 他エリアの体験紹介  再来訪につなげるため、利用者嗜好に応じ、他エリアの体験を紹介する仕組みを構築する。</p> <p>上記の取組みについて、日本遺産出羽三山としての一体的な取組みとするために、日本遺産出羽三山ポータルサイトに各団体のガイド情報を整理したページを作成し</p>	構成団体 ・ 協議会

		情報発信するとともに、統一したアンケート作成による調査とする。	
③	山形おもてなし ドライバー検定	山形おもてなしドライバー検定協議会と連携し、観光客と接する機会の多いタクシードライバーを対象として、観光知識と適切な接客サービスの提供ができる人材の育成・確保のための県内4地域ごとの認定研修会（現地研修会及び実践研修会）、検定試験を実施する。日本遺産の認定ストーリーを検定試験や研修会の内容に取り入れる事で、地域内の交通事業者に対する認定ストーリーの理解向上、来訪者の満足向上を図る。	山形県
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			6,529千円
2020年	地域のガイド利用料収入		1,021千円
2021年			3,256千円
2022年	地域のガイド利用料収入		4,600千円
2023年	地域のガイド利用料収入		5,900千円
2024年	地域のガイド利用料収入		6,600千円
事業費	2022年：1,300千円　2023年：1,300千円　2024年：1,300千円		
継続に向けた 事業設計	本事業は、来訪者の満足度向上を目的としたガイド人材のスキルアップや適切な接客サービスの提供を図る事を目的とした観光人材育成の側面をもったものであることから、自治体の財源も活用しながら実施するものである。特に①及び②は各組織において自主的な活動となっており、旅行会社が造成するツアーのガイドとしても活動しているが、中長期的にガイド利用による満足度の高い出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリー体験を来訪者に提供するために、地域全体で統一した取組みを図っていくものである。		
<b>(7) - 4 整備</b>			
<b>(事業番号4-A)</b>			
事業名	構成文化財六十里越街道の整備		
概要	【柱1-⑤関連】構成文化財の六十里越街道について、ルート整備と一部災害箇所の復旧を行い、利用者の利便性向上と復旧後の満足度の向上を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体

①	六十里越街道 ルート整備	構成文化財である六十里越街道について、保存活用団体のアルゴディア研究会及び六十里街道保存推進委員会と一体となり、草刈りやトイレ清掃等一体的なルート整備を行い、来訪者の利便性向上と満足度の向上を図る。	鶴岡市 朝日庁舎 ・ 西川町
②	六十里越街道 災害復旧	西川町側の令和2年度豪雨による被災箇所（四ツ谷川等）の復旧工事を行い、来訪者の利便性向上と安全確保及び復旧後の満足度向上を図る。※事業主体は国、町では連絡町道復旧事業を実施	西川町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	六十里越街道来訪者数		5,000人
2020年			2,400人
2021年			2,100人
2022年	六十里越街道来訪者数		3,500人
2023年	六十里越街道来訪者数		4,500人
2024年	六十里越街道来訪者数		5,000人
事業費	2022年：26,150千円　2023年：1,400千円　2024年：1,400千円		
継続に向けた 事業設計	実施主体である鶴岡市及び西川町において、構成文化財の保存・活用団体である六十里越街道保存推進委員会（西川町）、アルゴディア研究会（鶴岡市）と協力して官民一体で実施するものである。六十里越街道は、豊かな自然や歴史、文化などが混在する貴重な観光資源と位置付けられていることから、自治体の支援を受けて整備しており、短期的には継続して現在の実施体制としていくが、中長期的には、六十里越街道を訪れる来訪者からの収入若しくは整備協力金によって事業を構築する仕組みを検討していく。		

(事業番号4-B)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」二次交通支援事業		
概要	【柱1-⑤関連】アクセスの難しい湯殿山・月山周辺エリアへの二次交通支援を行い、来訪者の利便性向上や周遊拡大を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	湯殿山二次交通支援、 その他アクセスの検討	出羽三山詣でや月山縦走の登山客の観光の利便性を確保するため、公共交通手段のない湯殿山へのアクセス対策として、鶴岡駅と湯殿山を結ぶ観光ハイヤーの二次交通の運行を支援する。 また、鶴岡・酒田—山形間の高速バスの	DEGAM 鶴岡

		<p>湯殿山臨時バス停を国道沿いに設置、仙人沢への移送サービスにつき、実証事業または有償サービスのいずれかの支援を検討する。</p>  <p>※鶴岡駅から湯殿山口まで約 43 km</p>	
<p>②</p>	<p>朝日地域 夏季観光バス事業</p>	<p>朝日地域内の周遊エリア拡大のため、2次交通確保のために夏季限定でかたくり温泉ぼんぼ～朝日庁舎～注連寺・大日坊～田麦俣七ツ滝間の観光バス(ジャンボハイヤー)を運行する。</p>  <p>※バス停から構成文化財旧遠藤家住宅が存在する田麦俣まで約 25km</p>	<p>あさひむら 観光協会 ・ 鶴岡市 朝日庁舎</p>
<p>③</p>	<p>西川町 二次交通支援事業</p>	<p>月山地域を含む町内宿泊施設への誘客を促し、県内陸側から出羽三山を訪れる観光宿泊客の利便性を図るため、宿泊時における山形空港やJRさくらんぼ東根駅からの乗合タクシーや、県内(一部東北管内)レンタカーによる二次交通支援を実施する。</p>  <p>※さくらんぼ東根駅から月山ペアリフトのある姥沢地区まで約 57km</p>	<p>西川町</p>

年	事業評価指標	実績値・目標値
2019年	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数	281千人
2020年		138千人
2021年		未集計
2022年	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数	200千人
2023年	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数	260千人
2024年	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数	290千人
事業費	2022年：6,800千円    2023年：6,800千円    2024年：6,800千円	
継続に向けた事業設計	湯殿山・月山周辺エリアは、主要駅や空港からのアクセスが難しい環境にあるため、自治体や事業者からの支援により継続したアクセス整備を行うことで、利便性向上と周遊促進を図るものである。費用対効果の高い事業を継続するためにも、来訪者ニーズに合わせたアクセス整備の検討を図りながら、中長期的には、来訪者からの収入によって事業を構築する仕組みを検討していく。	

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」体験型コンテンツ充実事業		
概要	【柱1-①②③④関連】出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを活用した精神文化体験メニューの充実を図り、周遊拡大につなげる。満足度の高い体験を来訪者に提供する事により、出羽三山「生まれかわりの旅」のファン・リピーターの獲得を目指す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	石段詣	<p>出羽三山神社本殿へと続く2,446段の石段を「お注連」をかけて歩き、羽黒山の自然を感じながら出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを気軽に体験できる参拝プログラム「石段詣」を実施する。出羽三山神社及びつるおか観光ナビに設けたランディグページや専用チラシ等で告知し、羽黒山随神門入り口または山頂にて提供する。(主催：出羽三山神社、協力：DEGAM 鶴岡)</p>  	出羽三山神社 ・ DEGAM 鶴岡
②	山伏修行体験塾	山伏の精神文化を実際に体感する本格的な修行体験プログラム(日帰り～二泊三日)を宿坊街との連携により実施する。	羽黒町観光協会

		白装束を身にまとい、修行の一端（滝行・火渡り等）や出羽三山の自然と修験道の学習をプログラムとして提供する。羽黒町観光協会HPの専用ページにて告知・申込受付を行う。	
③	出羽三山の精進料理を活かした旅行企画	宿坊街を含めた羽黒山周辺エリアの滞在時間増加につなげるため、県内外の旅行会社とタイアップし、宿坊等による出羽三山の精進料理の提供と羽黒山ガイドを組み合わせた出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを体験できる旅行企画を行い、タイアップした旅行会社サイト等による告知と販売を行う。	出羽三山精進料理プロジェクト ・ 羽黒町観光協会
④	国宝羽黒山五重塔ライトアップ	国宝羽黒山五重塔をライトアップすることにより昼とは違い幽玄な世界を参拝できるようにすることで、通常行くことができない夜間の魅力をはかり新たなナイトツアーの造成や顧客の獲得を目指す。	実行委員会 ・ 羽黒町観光協会
⑤	「ゆどのの山塩」関連商品の開発、販売	株式会社みやま湯殿の山塩と連携した「ゆどのの山塩」の関連商品を軸とした新製品の開発を実施する。開発した商品を道の駅月山や産直あさひ・グー等にて販売する。	あさひむら特産品開発協議会
⑥	「出羽三山の山菜」関連商品の開発、販売	製麺業者と連携し、出羽三山の山菜を練り込んだ「そば」や「パスタ」の関連商品を軸とした新商品の開発を実施する。開発した商品を道の駅にしかわや立寄施設で販売するほか、出羽三山を巡る登拝口の宿泊施設において、通常の上菜料理と合わせて新商品を素材とする特別メニューとして振る舞い、自然の恵みを活かした特別感あふれるおもてなしにより、心身のリフレッシュを図るプログラムとして提供する。	民間事業者 ・ (一社)月山朝日観光協会
⑦	立谷沢産「山の芋」ブランド化推進	羽黒古道周辺で育まれた立谷沢特産の「山の芋」を素材として、滋養強壮効果の高い新メニューを開発し、北月山荘お食事処月うさぎ、清川歴史公園御殿茶屋での提供を、(事業番号1-B③)で企画	庄内町新産業創造協議会 ・ 庄内町観光

		する出羽三山「生まれかわりの旅」観光コースに入れ込み、誘客拡大を図る。	協会他
⑧	体験コンテンツ 磨上げ・商品造成・ セールス	(事業番号2-A)と連動し、①～⑦の取組を含む、来訪者ニーズを踏まえた体験コンテンツ磨上げや事業連携による周遊プログラム造成、情報発信等を行う。また、協議会として構成団体が持つコンテンツを把握・共有し、旅行会社への提案資料(コンテンツ内容、料金、手数料等含む)の作成を行うとともに、やまがた観光キャンペーン推進協議会とも連携してセールスを行う。	構成団体 ・ 協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	構成文化財の来訪者数		1,005千人
2020年			517千人
2021年			未集計
2022年	構成文化財の来訪者数		710千人
2023年	構成文化財の来訪者数		910千人
2024年	構成文化財の来訪者数		1,010千人
事業費	2022年：7,000千円 2023年：7,000千円 2024年：7,000千円		
継続に向けた 事業設計	来訪者に対して満足度の高いストーリー体験を継続して提供するために、(事業番号2-A)と連動することで、来訪者ニーズを踏まえた体験コンテンツ磨上げや商品造成につなげ、既に民間事業者において継続的に提供されているプログラムも含め中長期的に事業収益により事業継続が図られるよう促していく。そのために、日本遺産関連商品として売上げを計測・管理する仕組みづくりの検討を行う。①では収益の一部が石段整備に充てられている。収益の一部を構成文化財の保存に還元する先行事例として、地域全体の取組みとなるよう促していく。		
(事業番号5-B)【事業番号3-Cの再掲】			
事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」来訪者の満足度向上事業		
概要	【柱1-⑤、柱3-③関連】地域のガイド団体等を対象として出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを活用したガイド技術向上等の研修会を実施し、ガイド利用拡大と来訪者の満足度向上を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ガイド養成	地域のガイド団体を対象として、来訪者の興味を惹きつけるガイド技術向上等の研修会を実施し、各ガイド団体の持つノウハウ	構成団体 ・ 協議会

		<p>ウ及び各エリアの魅力の共有や来訪歴に応じた説明手法の検討を行う事で、ガイド利用者の満足度向上とリピーターの獲得につなげる。</p> <p>【想定する地域のガイド団体】  いでは観光ガイドの会（羽黒山）、月山観光ガイドの会・月山朝日ガイド協会（月山）、六十里越街道案内人ボランティア・六十里越街道山船頭人協会（湯殿山、六十里越街道）、きよかわ観光ガイドの会（清川関所跡）、羽黒山修験道を守る会（羽黒古道）</p>	
②	日本遺産ガイド 利用拡大	<p>○ガイド情報の整備  ガイド団体や観光協会等のHPにガイド内容や案内コース（距離・時間）、来訪前の必要情報（安全対策、アクセス、便益施設、立寄施設等）、予約機能等を整備するとともに、ガイド利用の促進を図るための実際のガイド中の風景や参加者へのインタビュー等を盛り込んだ動画等を掲載する。また、ガイド前に来訪歴や希望するガイド内容の聞き取りができる仕組みを構築する。</p> <p>○事前周知  ガイド団体のHPや観光協会等のHP、観光立寄施設配置のチラシ・パンフレットより事前周知を図る。また、ツアー造成のはたらきかけのツールとしても活用する。</p> <p>○事後のフォローアップ  1. 利用後のアンケート  ガイド後に満足度向上を図るためのアンケートを実施する。</p> <p>2. 他エリアの体験紹介  再来訪につなげるため、利用者嗜好に応じ、他エリアの体験を紹介する仕組みを構築する。</p> <p>上記の取組みについて、日本遺産出羽三山</p>	構成団体 ・ 協議会

		としての一体的な取組みとするために、日本遺産出羽三山ポータルサイトに各団体のガイド情報を整理したページを作成し情報発信するとともに、統一したアンケート作成による調査とする。	
③	山形おもてなし ドライバー検定	山形おもてなしドライバー検定協議会と連携し、観光客と接する機会の多いタクシードライバーを対象として、観光知識と適切な接遇サービスの提供ができる人材の育成・確保のための県内4地域ごとの認定研修会（現地研修会及び実践研修会）、検定試験を実施する。日本遺産の認定ストーリーを検定試験や研修会の内容に取り入れる事で、地域内の交通事業者に対する認定ストーリーの理解向上、来訪者の満足向上を図る。	山形県
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			6,529千円
2020年	地域のガイド利用料収入		1,021千円
2021年			3,256千円
2022年	地域のガイド利用料収入		4,600千円
2023年	地域のガイド利用料収入		5,900千円
2024年	地域のガイド利用料収入		6,600千円
事業費	2022年：1,300千円　2023年：1,300千円　2024年：1,300千円		
継続に向けた 事業設計	本事業は、来訪者の満足度向上を目的としたガイド人材のスキルアップや適切な接遇サービスの提供を図る事を目的とした観光人材育成の側面をもったものであることから、自治体の財源も活用しながら実施するものである。特に①及び②は各組織において自主的な活動となっており、旅行会社が造成するツアーのガイドとしても活動しているが、中長期的にガイド利用による満足度の高い出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリー体験を来訪者に提供するために、地域全体で統一した取組みを図っていくものである。		
(事業番号5-C)			
事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」インバウンドプロモーション		
概要	【柱1-①②③④⑤関連】出羽三山「生まれかわりの旅」を活用し、出羽三山の精神文化に関心の高い欧米豪をターゲットとした、ポストコロナを見据えたインバウンド誘客を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体

①	インバウンド プロモーション	DEGAM 鶴岡と連携し、出羽三山の精神文化に関心の高い欧米豪をターゲットとした多言語デジタルパンフレットの作製、多言語ガイドの育成等の受入環境を整備するとともに、海外メディアや旅行会社を招聘し出羽三山の魅力発信を行い、ポストコロナを見据えたインバウンド誘客を図る。	鶴岡市 ・ DEGAM 鶴岡
②	欧米市場における 富裕層を中心とした 訪日関心層の東北への 誘客促進事業	東北観光推進機構等と連携し、欧米市場の訪日関心層をターゲットに、メディアや旅行会社を招聘し、本県の精神文化に関する山伏修行体験等の出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリー体験ができるコンテンツを含んだ行程を巡り、日本遺産である出羽三山の更なる認知度向上・誘客促進を図る。	山形県
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	鶴岡市外国人延べ宿泊者数		12,089人
2020年			982人
2021年			未集計
2022年	鶴岡市外国人延べ宿泊者数※渡航制限解除の場合	8,500人	
2023年	鶴岡市外国人延べ宿泊者数※渡航制限解除の場合	10,900人	
2024年	鶴岡市外国人延べ宿泊者数※渡航制限解除の場合	12,100人	
事業費	2022年：3,000千円    2023年：3,000千円    2024年：3,000千円		
継続に向けた 事業設計	<p>「自然、文化体験、アクティビティ」の要素を持つアドベンチャートラベル（以下 AT）はポストコロナの旅行スタイルとしても注目されており、3つの要素を全て持ち合わせている出羽三山はその旅行形態を推進する上で核となり得ることから、AT を切り口としたプロモーションを実施し、AT ワールドサミット国内開催を契機とした、欧米豪向けの情報発信及び商談会への参加等、積極的に魅力発信を行っていく。あわせて多言語ガイドの養成も実施する事により、受入環境整備と体験提供の一体的な取組みとする事で継続を図っていく。また、他県等と広域的な連携を図り、欧米有力メディアへの継続的な露出により日本遺産である出羽三山の認知度を高めるとともに、旅行会社の招聘による具体的な日本遺産である出羽三山訪問の旅行商品造成を実施していく。</p>		

(事業番号5-D)

事業名		他の日本遺産との連携による周遊促進事業	
概要		【柱1-③④関連】他の日本遺産と連携した誘客事業を実施することにより、地域の周遊促進を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	鶴岡市3つの日本遺産を核とした周遊促進	出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会、鶴岡「サムライゆかりのシルク」推進協議会、鶴岡市北前船日本遺産推進協議会の連携を強化し、紙媒体やインターネットによる情報発信、各種イベントにおけるPRを行うとともに、3つの日本遺産を巡る旅行商品造成等の取組を行うことで市内の周遊促進を図る。	鶴岡市 ・ DEGAM 鶴岡
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	鶴岡市観光入込数		6,016千人
2020年			3,367千人
2021年			未集計
2022年	鶴岡市観光入込数		4,220千人
2023年	鶴岡市観光入込数		5,420千人
2024年	鶴岡市観光入込数		6,020千人
事業費	2022年：200千円    2023年：200千円    2024年：200千円		
継続に向けた事業設計	鶴岡市が保有する他の日本遺産推進組織やDMOと連携し、地域への経済効果波及の創出につなげる。		

## (7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	学校等との連携による出羽三山「生まれかわりの旅」普及啓発事業		
概要	【柱2-①⑤関連】出羽三山地域の歴史文化や構成文化財への関心や理解の向上を図り、郷土を誇る心を醸成するとともに、自ら語れる人材育成を目指すため、出羽三山地域の小学校・中学校・高校、住民を対象として、出羽三山「生まれかわりの旅」を活用した普及啓発事業を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出羽三山 伝統文化体験事業	県内の小学生と保護者を対象とした出羽三山の伝統文化体験機会を創出する。出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを活用した伝統文化体験の開催に加えて、子ども達目線で体験の魅力を発信する動画制作を行い、学校教育や教育旅行での活用に役立てる。地域の伝統文化継承実践者を講師とし、構成市町及び団体、学校等との連携により実施する。	協議会
②	副読本の制作・配布	社会科副読本に日本遺産を掲載し、地域内の小学校3年生に配布し、学校での課外学習活動につなげる。また、地域の歴史を伝える出前講座を希望する小中学校で実施し、その中で日本遺産について紹介し、認知度の向上、郷土を愛する心を醸成する。	鶴岡市 ・ 庄内町
③	ふるさと学校	町内13地域住民を特別講師とした小学校児童に対する出羽三山信仰に係る歴史講話や神社見学等の地域伝統・文化の校外学習を実施する。将来的には、日本遺産ストーリーを理解する住民として、来訪者にガイドできる人材を増加することを目的とする。	西川町
③	古道歩き体験	朝日地域の小・中学生を対象として、アルゴディア研究会と連携した、六十里越街道歩き体験を校外学習の一環で実施し街道の魅力を語れる人材育成を目指す。	鶴岡市 朝日庁舎
⑤	ふるさとを語れるよう になろうプロジェクト	西村山地域の高校と連携し、高校生に対して出羽三山「生まれかわりの旅」等地域の歴史文化に関する出前講座や副読本	西村山地域 広域連携協 議会

		の提供を行う事で、ふるさとの魅力を語れる人材育成を目指す。	
⑥	歴史文化学習会 ・ あいべの時間	六十里越街道を含む出羽三山信仰・安中坊などに係る町民向け学習活動を実施する。将来的には、日本遺産ストーリーを理解する住民として、来訪者にガイドできる人材を増加することを目的とする。	西川町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			-
2020年	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合		-
2021年			56%
2022年	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合		59%
2023年	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合		62%
2024年	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合		65%
事業費	2022年：3,100千円 2023年：3,100千円 2024年：3,100千円		
継続に向けた事業設計	中長期的に出羽三山地域の歴史文化や構成文化財への関心や理解の向上を図り郷土を誇る心を醸成するとともに、自ら語れる人材を育成する観点から、持続的な取組とするために自治体予算により実施するものである。既に構成自治体において地域の関係団体とも連携した普及啓発活動となっているため、今後はその活動の中で日本遺産や出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを説明に取り入れもらう等、ストーリーの地域浸透を図っていく。		

(事業番号6—B)

事業名	構成文化財を活用した出羽三山「生まれかわりの旅」に関心を持つきっかけとなる体験イベント		
概要	【柱2-②⑤関連】構成文化財を活用した体験イベントを開催し、出羽三山「生まれかわりの旅」に関心を持つきっかけを創出する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出羽三山精進料理 魅力発信事業	出羽三山の精進料理を観光振興・地域づくりに活用し大切な食文化を継承するため、大都市での出羽三山食文化講演会・地域特産品物販等のイベントや、精進料理教室の企画・開催、食材や食文化への啓発活動を実施する。	出羽三山精進料理プロジェクト ・ 羽黒町観光協会
②	国宝羽黒山五重塔 ライトアップ 【再掲】	国宝羽黒山五重塔をライトアップすることにより昼とは違い幽玄な世界を参拝できるようにすることで、通常行くことが	実行委員会 ・ 羽黒町

		できない夜間の魅力をはかり新たなナイトツアーの造成や顧客の獲得を目指す。	観光協会
③	六十里越街道 古道歩き	アルゴディア研究会や(株)月山あさひ振興公社と連携し、六十里越街道や周辺の構成文化財や周辺施設等を巡る、古道歩き体験や六十里越街道でのスタンプラリーを実施する。	あさひむら 観光協会
④	月山龍神マラソン	日本百名山の「月山」、平成の名水百選「立谷沢川流域」の自然を満喫し、日本遺産の出羽三山、歴史の里清川で歴史文化を体感し、名水の恵みを受けた「日本一おいしい米の里」庄内の秋の味覚を楽しんでもらいながら、地域住民との触れ合いを大切にしたマラソン大会を実施することで観光交流人口の拡大と地域物産振興等により地域活性化を図る。	庄内町 観光協会
⑤	奥の細道羽黒山 全国俳句大会	本大会を通じて、現代俳句の郷土への普及と、全国に俳句の聖地として、出羽三山の歴史と文化を発信する。一般の部と子どもの部の投句を開催することで、多世代にわたる普及啓発機会とする。	出羽三 山神社 ・ 鶴岡市
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			-
2020年	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）		-
2021年			77%
2022年	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）		78%
2023年	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）		79%
2024年	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）		80%
事業費	2022年：15,500千円 2023年：15,500千円 2024年：15,500千円		
継続に向けた 事業設計	観光協会等を中心としてこれまで当該事業の収益や地域事業者等からの協賛金等により継続して実施している事業であり、今後も引き続き継続して事業を実施する。事業告知やイベント中のプログラムの中で出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーの解説等も加える事により、ストーリーの地域浸透を図っていく。		

## (事業番号6-C)

事業名	いでは文化記念館を通じた出羽三山「生まれかわりの旅」普及啓発事業		
概要	【柱2-③⑤関連】出羽三山「生まれかわりの旅」の拠点施設であるいでは文化記念館を通じた普及啓発事業を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	企画展の開催	幼児から高齢者まで幅広い世代を対象とした、出羽三山の歴史と文化を伝える企画展を開催する。	羽黒町観光協会 ・ 鶴岡市
②	古文書解説・歴史講座	大学生から高齢者を対象とした、出羽三山に関する歴史的資料を読み解き、出羽三山の歴史を広く学ぶ機会を創出する。	羽黒町観光協会 ・ 鶴岡市
③	羽黒山歴史探訪	小学生から高齢者までを対象とした、出羽三山信仰を連綿と支えてきた手向地区をフィールドに地域に残る歴史や宿坊を訪ねる街歩きイベントを実施する。	羽黒町観光協会 ・ 鶴岡市
④	いではわくわくワークショップ	小学生から高齢者までを対象とした、さまざまな手作り体験を通して出羽三山の歴史や文化に触れてもらうワークショップを開催する。	羽黒町観光協会 ・ 鶴岡市
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	いでは文化記念館の入館者数		23,912人
2020年			17,745人
2021年			25,000人(見込)
2022年	いでは文化記念館の入館者数		24,260人
2023年	いでは文化記念館の入館者数		24,610人
2024年	いでは文化記念館の入館者数		24,960人
事業費	2022年：850千円　2023年：850千円　2024年：850千円		
継続に向けた事業設計	羽黒町観光協会は、羽黒地域の観光に関わる多種多様な会員からの会費及び鶴岡市からの補助金等を主な財源として、協会と地域住民、行政が一体となって活動しており、観光事業の振興や羽黒地域の歴史と文化の伝承に貢献すべく、今後も様々な事業を実施していく。		

## (事業番号6-D)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」教育旅行推進事業		
概要	【柱2-④⑤関連】教育旅行誘致を目的として、日本遺産のストーリーを体験するプログラムや周知を図るためのパンフレット等整備を行い、エージェント・学校関係者等へのはたらきかけを実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	教育旅行向け冊子の製作	教育旅行用デジタルパンフレット「まなぶつるおか」を更新し、県内小学校、東北地方の旅行エージェントに配布、誘致活動を実施する。	DEGAM 鶴岡
②	教育旅行推進事業	山形県教育旅行誘致協議会、東北観光推進機構と連携し、エージェント・学校関係者に向けて、本県の強みを活かした教育旅行メニューの提案による誘致・広報活動の展開、特設サイト「探求するなら山形県」における情報発信を行う。	山形県 ・ 山形県観光物産協会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	教育旅行参加者数 H28～R2 平均		800人
2020年			
2021年			
2022年	教育旅行参加者数		900人
2023年	教育旅行参加者数		1,000人
2024年	教育旅行参加者数		1,100人
事業費	2022年：15,500千円 2023年：15,500千円 2024年：15,500千円		
継続に向けた事業設計	<p>①について、学生が旅マエ・旅ナカ・旅アトでも活用可能なツールを追加し、興味を持って学べる環境を整える。また、エージェントのニーズに即した掲載内容の充実を図り、継続的な教育旅行誘致に繋げていく。</p> <p>②について、山形県教育旅行誘致協議会は、官民が会員となり、連携して本県への教育旅行誘致を行う団体。地域の特色を活かしたメニューや探求型学習コンテンツの提案が求められる中で、日本遺産コンテンツや精神文化を体験・体感できる山伏修行体験プログラム等は、本県にとって大きな強み。パンフレットや特設サイトでの情報発信を行うとともに、関連団体と連携した誘致活動(学校や旅行会社訪問、招請事業実施、商談会参加)を継続的に行うことにより、中長期的に教育旅行誘致を進めていく。</p>		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」戦略的情報発信事業		
概要	【柱1-④関連】構成団体及び協議会が運用するHPやSNS等を活用し、出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリー体験を来訪者に提供するまでの動線を意識した情報発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	国内向け HP・SNS の運用・情報発信	<p>○HPの運用・情報発信                      構成団体が運用するHP（つるおか観光ナビ等）のランディングページ等にストーリー、モデルコース、体験プログラム等の情報を整備し発信。協議会が運用する公式ポータルサイトに構成団体が運用するHPや体験プログラム等を集約したページを製作し発信するとともに、メインターゲットである首都圏及び宮城県等の近県、県内を中心としたWEB広告を行い、認知及び来訪意欲向上を図る。また、構成団体や協議会の情報発信の内容等に連動し、県観光情報総合サイト（R3年度月平均18万セッション）内で、特にアクセスの多い「モデルコース」や「特集」ページ等を活用して、出羽三山「生まれかわりの旅」の情報発信、旅の提案を行う。</p> <p>更に、県観光情報総合サイト内に構築する「着地観光商品流通ページ（仮）」において、各団体の着地商品を販売することにより、実際の来訪につなげていく。</p> <p>○SNSの運用・情報発信                      構成団体及び協議会が運用するSNSでは、若年層をメインターゲットとした、ツールの特性に合った情報発信を行う。TwitterやInstagramでは、即時性や話題性のある地域情報を、動画や写真を効果的に活用し発信する。Facebookでは、ユーザーの年齢層が他と比較して高いといわれるため、20代後半～50代に向けた情報の質を重視した発信を行う。い</p>	構成団体 ・ 協議会

		<p>ずれも構成団体及び協議会が運用するHP等のWEBページを掲載する事で関連情報への誘導を図る。</p>	
②	<p>国外向け HP・SNS の運用・情報発信</p>	<p>欧米豪をターゲットに、構成団体及び協議会のHP（つるおか観光ナビ多言語版等）やSNS（Land of Dewa等）による出羽三山の精神文化や自然等を活かした体験コンテンツやアクセス情報等を発信する。</p> <p>また、「STAY YAMAGATA」（県観光情報総合サイト多言語版）や本県の海外現地コーディネーターによる公式SNS等を用いた情報発信を実施。「STAY YAMAGATA」については、サイトへ誘導するQRコードの多言語パンフレットへの掲載や他連携サイトへのリンク掲載等によりサイトへの流入を図るとともに、山形県が制作した出羽三山に関する多言語記事を活用し、記事掲載ページに関連OTAサイトのURLを掲載することで、認知度向上及び誘客促進につなげる。</p>	<p>構成団体 ・ 協議会</p>
③	<p>出羽三山「生まれかわりの旅」ニュース（仮称）の発行</p>	<p>（事業番号5-A①）「石段詣」参加者を対象として出羽三山「生まれかわりの旅」ニュース（仮称）をメール発行する。（事業番号2-A①）で得た情報を活用し、参加者ニーズに応じた地域情報を提供する事で再来訪につなげ、中長期的な出羽三山「生まれかわりの旅」のファンとリピーターの獲得を目指す。</p>	<p>構成団体 ・ 協議会</p>
④	<p>メディアとの連携</p>	<p>プレスリリースの積極的な活用や（事業番号5-C）による海外メディア招聘等を行い、報道機関との連携を拡充する。</p>	<p>構成団体 ・ 協議会</p>
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	協議会公式ポータルサイトPV数（単年度）		98,311件
2020年			98,171件
2021年			82,931件 ※R4.1月末現在
2022年	協議会公式ポータルサイトPV数（単年度）		110,000件
2023年	協議会公式ポータルサイトPV数（単年度）		120,000件

2024年	協議会公式ポータルサイトPV数（単年度）	130,000件	
事業費	2022年：1,000千円	2023年：1,000千円	2024年：1,000千円
継続に向けた事業設計	<p>実際の来訪や体験、再来訪につながるよう、構成団体及び協議会のHP・SNS等の情報整備と集約を強化するとともに、ターゲットやニーズに応じた情報発信を行う。また、セッション数の高い県観光情報総合サイト等の活用やメディアとの連携により、スケールメリットを活かした費用対効果の高い取組みとする。</p>		